



# “Pure CS” Project Photo Letter



No. 6, December 2018

12月に入りエイヤワディー地域の多くでは収穫作業が終わり、CS生産農場では生産物審査に送付するサンプル収集で普及員は忙しく活動しています。一方、北部のシュエボー県でも「ポーサン」種が収穫期を迎え、頭を垂れてきました。品質がきちんと保証された「CS」が米生産農家に流通し、生産性と品質向上を誰もが享受できるようになるまで、研修・モニタリング・ステークホルダー会議等を通じたプロジェクトのチャレンジは続きます。

**普及員技術研修とCS生産モニタリング**：2018年最後となるシュエボーでの第5回研修を実施しました。一連の研修とおして普及員とのネットワークが構築されたことも大きな成果です。今後は研修員を通じて各地のモニタリングやCS生産者への働きかけを実施予定です。またCS生産用の種子（BS,FS,RS）増殖を行うDAR/DOA種子農場の品質管理モニタリングを実施し、担当者と意見交換を行いました。（写真：左から、CS品質管理の講義、CS水分含量の測定、DAR/DOA種子農場担当者との意見交換）



**ステークホルダー会議**：シュエボー郡における3回目の会議は先月のパティンとヒンタダに引き続き、精米所にCSの品質とCSを使用したコメの品質の高さを理解してもらおうと、農家のCS生産農場及びコメ生産農場の視察を行いました。参加した精米業者は一応にCS使用の利点を直に確認することができました。（写真：左から、CS利用コメ生産農場視察、精米業者による粉の質の確認、ステークホルダー同士の意見交換会）



**種子選別機の調達・据付け**：プロジェクトでは種子選別機3台を調達、日本人専門家と製造元から派遣された据付技師監督の下、エイヤワディー地域のマウビン、チャイラト、カンジーダウンのDOA倉庫に据え付けました。また、先行プロジェクトが供与した選別機6台の修理とメンテナンスも行いました。作業は1月まで続き、最後に各県の種子選別機運転管理者への研修を行い完了する予定です。（写真：左から、種子選別機の搬入、据付け、先行プロジェクトが供与した選別機のメンテナンス）



エイヤワディー地域もシュエボー郡も収穫が終わりに近づき、天日乾燥が始まりました。農民の顔は一樣に笑みが浮かんでいるように見えます。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設しましたのでご覧ください。（編集委）